

令和6年度第1回四條畷市総合戦略協議会 会議録

日 時	令和6年8月30日（金）10:00～11:00
場 所	市役所本館 3階 委員会室
出 席 者	上村委員（副会長）、三原委員、小西委員、中川委員、新阜委員、島田委員、中野委員、相良委員
欠 席 者	石関委員（会長）
事 務 局	西尾総合政策部長、鈴木総合政策部次長兼企画広報課長、水野企画広報課長代理
議 題	1 開会 2 議題 次第1 令和5年度実績等について 次第2 今後のスケジュール・質疑応答等 3 閉会
配布資料	・資料1 次第、座席表、名簿

（文中敬称略）

事 務 局	<p>1 開 会</p> <p>それでは皆様お集まりですので、少し定刻より早いですけれども進めて参ります。</p> <p>皆様方にはお忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。本日は出席委員が8人、欠席委員が1人でございます。</p> <p>四條畷市総合戦略協議会規則第三条第2項の規定に基づき、出席者が過半数を超えておりますので、会議が成立することを報告いたします。</p> <p>まず初めに、事務局側の職員を紹介させていただきます。</p> <p>総合政策部長の西尾でございます。</p> <p>総合政策部次長兼企画広報課長の鈴木でございます。</p> <p>最後に、私企画広報課長代理の水野でございます。</p> <p>なお本日、会長の石関先生が都合により欠席のため、上村副会長に議事進行をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは上村副会長よろしくお願いたします。</p>
上村副会長	<p>それでは進行させていただきます。</p> <p>ただ、不慣れなものでうまく進行できるか、どうか皆様方のご協力をひとつよろしくお願いをいたします。</p> <p>ただいま事務局からの説明がございましたとおり、会長が欠席でございますので私の方が進行させていただきます。</p> <p>まず初めに、四條畷市総合戦略協議会条例第4条第3項に規定する産業経済団体の関係者として、一般社団法人四條畷青年会議所理事長が交代されたことに伴い、前理事長の角田正樹様にかわり新阜潤一様が新たに委員として委嘱されました。</p>

	新阜委員、一言自己紹介をお願いしてよろしいでしょうか。
新阜委員	<p>おはようございます。</p> <p>一般社団法人四條畷青年会議所、今年度理事長の職をお預かりしております新阜潤一と申します。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>私、今年で最終年度となりますが、青年会議所のメンバーとして所属をさせていただいております。</p> <p>皆さんとともに少しでも良い四條畷をつくっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
上村副会長	<p>新阜様、ありがとうございました。</p> <p>本日は、委員に就任されてからの初めての会議ということでございまして、改めて委員の方々を紹介させていただきたいと思っております。</p> <p>まず私、副会長の上村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>そして三原委員。</p>
三原委員	<p>りそな銀行四條畷支店、支店長の三原です。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
上村副会長	小西委員。
小西委員	枚方信用金庫の小西です。よろしくお願いいたします。
上村副会長	中川委員。
中川委員	四條畷商工会の中川と申します。よろしくお願いいたします。
上村副会長	先ほど紹介させていただきました新阜委員でございます。
新阜委員	新阜です。よろしくお願いいたします。
上村副会長	島田委員でございます。
島田委員	社団法人あじーるの島田と申します。よろしくお願いいたします。
上村副会長	中野委員。
中野委員	楠公地区を受け持っています、中野です、よろしくお願いいたします。
上村副会長	相良委員。
相良委員	田原に住んでおります、相良と申します。よろしくお願いいたします。

	<p>どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>次第に入ります前にこの協議会の趣旨につきまして事務局から簡単に説明していただけますか。</p> <p>はい。今回初めてご出席される委員の方もいらっしゃいますので、地方創生及び本協議会について簡単にご説明をさせていただきます。</p> <p>人口減少克服と地方創生をあわせて行うことにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持することをめざし、2014年12月に「まち・ひと・しごと創生法」が施行されました。</p> <p>地方創生とは、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした一連の施策をいいます。</p> <p>「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国においては、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「第2期まち・ひと・しごと総合戦略」が策定されています。</p> <p>「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、2060年に1億人程度の人口を確保するための中長期的展望が示され、「まち・ひと・しごと総合戦略」では、将来にわたって活力ある地域社会の実現と、東京圏への一極集中の是正を趣旨とした基本目標や施策の方向性、目標などが示されました。</p> <p>また、「まち・ひと・しごと創生法」では、各自治体においても、地方人口ビジョン及び地方版まち・ひと・しごと総合戦略を策定することが、努力義務とされました。</p> <p>本市におきましても、法の基本理念を踏まえ、2015年10月に「四條畷市人口ビジョン」及び「四條畷市総合戦略」を策定し、どちらも2023年3月に改定を行ったところでございます。</p> <p>「第2期四條畷市総合戦略」では、「四條畷市人口ビジョン」に掲げる将来展望である令和32年、西暦2050年時点で、人口規模4万5000人程度、生産年齢人口比率が概ね50%以上をめざし、「みんなで未来を育むまち四條畷」の理念のもと、令和5年度より5か年にわたる未来への投資期間として、令和9年の総合戦略のKGIに、3か年平均での「40歳未満の社会増」を掲げ、ひとづくり、まちづくり、しくみづくりの3つを基本目標とし、それに基づく各種関連施策とKPIを設定いたしました。</p> <p>本協議会におきましては、総合戦略の策定や改定の際に、委員の皆様から専門的なご意見をいただくとともに、計画策定後の現在は、総合戦略に掲げる目標の進捗管理を行っております。</p> <p>地方創生及び本協議会について、これまでの経緯を中心にご説明をさせていただきました。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
<p>事務局</p> <p>上村副会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいまの説明に関しまして何かご質問等ございますでしょうか。</p> <p>ないようでございますので、それではただいまから令和6年度第1回四條畷市総合戦略協議会を開会いたします。</p> <p>事務局本日の資料の確認をお願いいたします。</p>

事務局	<p>それでは本日の資料につきましては、事前に送付をさせていただいております資料1、令和5年度実績、また、本日机前にお配りをしました次第、座席表、名簿となっております。</p> <p>皆様の資料はおそろいでしょうか。</p>
上村副会長	<p>それでは次第に沿って会議を進めます。</p> <p>まず、次第1 令和5年度実績等について事務局からの説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それではまず資料1、総合戦略の令和5年度の実績表をご覧くださいながらご説明をいたします。</p> <p>令和5年3月に策定をしました、第2期四條畷市総合戦略に定める目標値の達成度合いについて、初年度となりました令和5年度の取り組み実績をご報告いたします。</p> <p>総合戦略においては、ひとづくり、まちづくり、しくみづくりを基本目標に据えて、それぞれの施策に取り組んでいくとともに、KPI 重要業績評価指標を設定して進捗管理することで、最終的にはKGIである「40歳未満の社会増」をめざしているところでございます。</p> <p>それでは最初に、基本目標、ひとづくり、についてご説明をいたします。</p> <p>まず政策「子どもの主体的な学びの支援」では「全国学力・学習状況調査（思考・判断・表現）の正答率）の全国平均正答率を1とした時の割合」について、小学生は基準値を下回り、中学生においてはわずかに基準値を超えております。</p> <p>これに関して、担当部署では、思考・判断・表現力の育成に繋がる授業改善に課題が見られると分析しており、この改善が進むよう、学校支援や指導助言を行っていくということで聞いております。</p> <p>次に「話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた児童・生徒の割合」について、小学生・中学生ともに基準値を大きく超えており、特に中学生では、令和7年度中間目標値、さらには、令和9年度の最終目標値を上回っております。</p> <p>これに関して、1年ごとに数値も変化するため、留意をしていく必要がございますが、担当部署では、各校において主体的対話的で深い学びを実現できるような授業改善が進んでいると分析し、引き続き、子どもが主体となる授業づくりを進めることができるよう助言していくとのことでございます。</p> <p>次に、政策「大人の学びの支援」では、市民意識調査の項目である「知識、技術、経験を仕事や地域、社会での活動に生かしていると答えた人の割合」について、こちらも基準値から一定増加をしております。</p> <p>令和6年度は、学び直しの取り組みを本格的に推進することとしており、新たに10月から学習に要する費用を支援するキャリアアップ補助金制度をスタートさせるなど、学習後のフォローアップも含めて一体的に支援を進めて参るところです。</p>

次に基本目標、まちづくり、についてです。

政策「『住む』魅力の創出」では、通学路等の安全対策について、中間目標値7か所に対して、実績が12か所となりました。

これに関して、担当部署では、一部の対策について、直営での対策を行ったことで進捗が進んだとしており、今後も引き続き安全対策を進めていくとのことでございます。

次に「四條畷市に移り住むことを勧めたいと思うと答えた人の割合」について、こちらも市民意識調査の項目ですが、基準値よりわずかに減少しております。

一方で、同調査にて「四條畷市にこれからも住み続けたいと答えた人の割合」が66.3%という結果から、住んでいる市民の評価は高いものの、他人に移住を勧めるまでには至っていないことが伺えます。

本市としてはこの指標を重要視しており、この差分を埋めるべく、シビックプライドの醸成に加えて、市内外へ本市の取り組みを発信して参ります。

次に政策「地域経済の好循環の創出」、「地域資源を活かしたデジタル技術を用いたまち」では「創業支援に基づく新規起業数」について、基準値と比較して減少しております。

これに関して担当部署では、これまでの創業支援の実績を踏まえると、年度を跨いで創業を準備する潜在的な案件であったり、市独自のなわて事業者チャレンジ支援制度の継続実施による創業へのチャレンジしやすい環境が重なり、今後も一定の新規創業を見込んでいるとのことでございます。

次に「今後発展しそうだと答えた人の割合」について、こちらも市民意識調査の項目ですが、結果は微増にとどまっているものの、本市として、行政サービスのデジタル化やAIチャットボットの導入など、新たな取り組みを行っていることから、令和5年3月に策定をしました広報戦略に基づいて、広報誌や公式SNSにより情報発信するとともに、必要に応じて随時改善を図って参ります。

また、今年度末のリニューアルに向けて準備を進めております市のホームページの再構築なども含め、効果的な情報発信により、本市の取り組みに対する市民認知度の向上に努めて参ります。

次に基本目標、しくみづくり、についてご説明いたします。

政策「保育環境の充実」では、「保育所等の待機児童数（年度当初）」について基準値から変化していないという結果になりましたが、継続して年齢定員を超えて、弾力的に受け入れるなどして現状維持しております。

また担当部署による今後の見通しについて、令和6年度から公定価格の地域区分が6%から10%へ見直されたこと、また引き続き保育士等支援策の充実を図ることで、保育所を確保し、待機児童の解消を進めていきたいということでございます。

次に「ふれあい教室の待機児童数（年度当初）」について、低学年で3名、4から6年生の高学年で8名、合計11名の待機児童が生じました。

これに関して、担当部署では、児童減少等も反比例をして、就労世帯の割合が増えたと分析しており、引き続き、柔軟な対応による年齢を超えた弾力的な受け入れ等を継続していくとのこととございます。

次に政策「子育てのサポート体制の強化」では「この地域で今後も子育てしていきたいと答えた人の割合」について、基準値である令和3年度が94.1%に対して、令和5年度の実績は93.5%ということで、わずかに減少しているところでございます。

一方で、表には記載されておりませんが、令和4年度の実績が91.8%だったことから、前年度よりは若干数値が増加しているところでございます。

これに関して担当部署では今後の見通しの中で、妊婦向けの新たな支援制度の開始に加えて、出産前から出産後までの全体的な支援の拡充を進めており、妊娠期から子育て期に切れ目のないサポートを強化していくとのこととございます。

次の政策「健康寿命の延伸」では「平均寿命と健康寿命の差（不健康な期間）の縮小」について、男性、女性とも基準値に比べて差が縮小いたしました。

これに関して担当部署では、短期的に効果を捉えることはできないものの、健康寿命、健康意識ともに向上していると考えており、引き続き健康イベントを実施するとともに、健康ポイントなど、新たな取り組み検討により、モチベーションアップにつなげていきたいとのこととございます。

次の政策「利用者（市民・職員）の利便性向上」、「きめ細かく丁寧な市役所の実現」、「だれもがデジタルの恩恵を受けられる環境整備」では、行政手続きのオンライン化について、現時点で41%まで進んでいるところです。

これに関して担当部署では、オンライン化できないと報告された業務について、オンライン化に向けた課題の洗い出しを支援するなど、推進に向けた進捗管理を行っており、引き続き、所管部署へ働きかけていきたいとのこととございます。

最後に「マイナンバーカード保有率の向上」について、現時点で保有率が77.9%となり、基準値に比べて大幅に増加をしております。

これに関して担当部署では、平日夜間や休日開庁などにより申請受け付けを実施するなどした結果、マイナンバーカードの取得は大きく進んだものと分析し、また、マイナンバーカード保有率の増加とあわせて、オンライン申請やコンビニでの証明書発行件数が増加し、窓口来庁者が減少したことで、業務の効率化を図り、引き続き、申請しやすい環境を整えることで、交付率の向上を目指したいとのこととございます。

以上簡単ではございますが、第2期四條畷市総合戦略に掲げる取り組みの令和5年度のKPI実績報告とさせていただきます。

上村副会長

ただいまの事務局からの説明につきまして委員の皆様方からのご意見ご質

	問はありますでしょうか
事務局	<p>1点すいません。 ご質問いただく際に今日議事録の関係で録音させていただいております。 できましたらマイクを通してご質問いただけたらと思いますのでよろしく お願いいたします。</p>
上村副会長	<p>何かございませんか。 はい。島田さん。</p>
島田委員	<p>質問というか感想にもなってしまうのですが、ひとつづくりのところで、学校の授業内容などが、私も息子がいますが学校の授業参観などに参加させてもらってどんどん変わってきているというのはすごく、実感しています。 子どもたちが主体的に学べるような、授業内容に変わってきているというのが、実感していてとても嬉しいですけど、不登校の子どもたちが今どんどん増えていて、その対策がやはりまだ、まだちょっと少ないのではないかと考えていまして、うちの「あじーる」の場所では、不登校の子どもたちや親御さんが集まれる場所づくりをしているのですが、お母さんが悩まれたときに相談できる場所というのが学校や支援センターだけではなく、こういう場所もあるのだということを、もっといろんな方に知ってもらいたいと思います。</p>
上村副会長	<p>ありがとうございました。 貴重な意見ありがとうございます。 今の島田さんの意見に対しまして何か事務局からございますか。</p>
事務局	<p>担当部局ではないので、私が直接お答えはできないのですが、いただいたご意見は必ずお伝えしたいと思いますこと、実は四條畷市にかかわらず、不登校の児童さんたちと関わる場所というのは、公的な機関だけではなく、やはり民間の機関の方々も含めて、いろいろな受け皿があることで、子どもさん、親御さんの方々皆さんが、元の環境に戻っていかたり、必ずしも学校でない環境の中で学びを進めていくことができるものだと思っております。 なかなかこのあたりについては広く認識されているところは少ない部分ではあるのですが、行政だけの情報ではなくいろいろな活躍をされている方、それから、そういうサービスが実は四條畷の中で、ちゃんと生まれてるのだということを皆さんに知っていただきたいと、私たち広報担当部署としても思っております。 どういう見せ方をしていくかということも含めて、行政だけがすべてできるわけではなくてやはり四條畷で活動されている皆様のいろいろな活動があって、市の良さというのは引き立っていくものになると思っておりますので、そのあたりの周知、それから、市民の皆さんへの浸透については、教育部局だけにとどまらず、私たちのような広報の部署も含めて皆さんに知っていただけるように、今後その教育にかかる特集をしていく中でも、考えていきたいと思っております。</p>

<p>上村副会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>日頃まちづくり等々にいろいろな部分で関わりを持ち続けておられる、青年会議所の方といたしましては何かまちづくり等々、ひとづくり、しくみづくりでも構いませんけれども、何か案としてはございますでしょうか。</p>
<p>新 阜 委 員</p>	<p>着座のまま失礼いたします。</p> <p>我々四條畷青年会議所としましては、青少年健全育成事業等々も行っております。例えばわんぱく相撲や少年野球大会とかも行ってございまして、あとは単年度制の事業になりますが、子どもさんたちの学びの機会みたいなものは、それぞれ毎年毎年その担当の委員会が何かしら方法を企画して、運営をしていくというところになっております。</p> <p>また今回このような例えばひとづくり、子どもの主体的な学びの支援みたいなところなども、我々としてもいろいろ協力できる部分等もあると思いますので、ぜひとも今後、市の方ともしっかりと協力をしながら、いろいろな事業が、我々として打っていけば、こういった部分の手助けにもなるのではないかなと思っております。今現在は、何か市の方と、積極的な協力をしてやっているという印象を私自身受けてはいないので、もっともっとここを市の皆様と協力したり、他団体の皆様と協力したりすることでもっともっと良い事業を作り上げていけるのではないかなと思っております。</p> <p>あと、まちづくりに関しまして私自身はすごく四條畷住みやすいところだと思ってございまして、交通の便も非常に便利なところにございますし、それから環境としても自然も多いので、私自身高校生のときに四條畷に引っ越ししてきて、すごくいいところだなという印象を受けているので、これからももっともっとそういう部分が広がって行って少しでもこの生産人口が増えていくような取り組みをしていかなければいけないのかなと思っております。</p> <p>そのためにもやっぱりその子育て支援はもちろんですけれども、そもそも今、晩婚化が進んでいるという状況になっておりますので、そういう部分が改善されないとなかなか生産世代を四條畷に呼び込むのは正直難しいのではないかなというところも感じておる次第でございます。何か我々としてできることがないかとは思っておるのですが、現状ちょっとそこに関しては何か手を打っているという状況ではございません。</p> <p>以上になります。</p>
<p>上村副会長</p>	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>なかなか四條畷市に移り住むことを勧めたいと思うという人が増えてこないというのはちょっと残念な部分もございまして、もっと本当は新阜さんがおっしゃったように、非常に住みやすくいいところだなと私も思うのですが、市民の目線でいかがでしょうか。</p> <p>四條畷というところに関して何かご質問、何かご意見等ございますでしょうか。中野さん。</p>
<p>中 野 委 員</p>	<p>私はボランティア活動的なことをやらせていただいておりますけれども、実感として私このまちに住んでもう50年、50数年になるんですけども、非常に良いまち</p>

だと思っていますし、是非とも住んでもらいたい、と思ってるんですけども、同時に、他市との差別化なんかはあまりされているような気がしないので、「ここはそこよりこんなところがいいんだよ」という、訴えかける材料がないんやね。

言えば快速は止まりますよ、ぐらいいいもので、通勤するのに市内に全部で10何分で行きますよというぐらいで、あと緑豊かなまちなんだけど、その緑豊かなまちに行くのは、要するに足腰の元気な人は行けるけれども、足腰の弱い人や小さい子どもたちはなかなかそっちの方に行けないと。

市内の中に、こんな緑の環境はね、町中に緑の環境が少ない、道路が狭いとか、そういう部分だけが目立ってしまって、その辺の改善を徐々にしていかないとなかなか、もう少し基本的なまちづくりを計画されない、なかなかこうまちってというのは発展しないんじゃないかなと思うんですよね。

上村副会長

ありがとうございます。
相良さんいかがでしょうか。

相良委員

はい。失礼します。

私が住んでいるのが田原地域なので自分の周りが緑が多いなという印象はあるんですけども、昨年、四條畷市日本語教室というのがあって、毎年そこで学習されている外国ルーツの方が発表される中で、フランスのパリ出身の方がお話しされたんですけども、四條畷市はもう本当に緑が多くて素晴らしいと。

私はこんな綺麗なまちに引っ越してきてうれしいというお話を流暢な日本語でお話しされたことがあってすごく感動したんですけども、住んでいてもなかなか気づかないんですけど、ちょっとここにもちらっと書いてあるんですが田原の方で今、自動運転車というのをこの6月から本格運行してる中で、水曜日と第3土曜日と、月5日だけなんですけど運行させる中で、ちょっと面白い、どんなものか乗ってみようということで地域の方が乗られて、地域の中を走り回ること、自分が住んでる周りで見てるよりも、今まで見なかったところを見れたりとか、もっともっと、思ってるよりも良い風景だったり、すてきな場所がいっぱいあるんだなということ、感じましたという感想をたくさんいただくことがあって、四條畷市の野外活動センターというところで勤務してるんですけども、ここ数年、大阪市内からの利用がすごく多くて、おそらくはホームページとかを見てきてくださってるんですけども、直近の場所である近隣市の利用は意外と少ないんです。

でも結構離れた遠くのところからわざわざこんな小さな市の小さなキャンプ場に、来てくださる方がすごく増えていて、もっともっとその近隣市に、この四條畷市に足を運んでもらって市を体験してもらえようようなイベントであったり取り組みであったりが増えてきたら、このまちに住んでみようかなとか、ちょっと関心を持っていただける人が増えてきたりするのかなあと感じます。

上村副会長

ありがとうございます。
なかなかいいお話いただきましてありがとうございます。
金融機関から見て何かこうしたらいとかそういうような案等ございます

<p>三原委員</p>	<p>でしょうか。</p> <p>まず、ひとつづくりのところは、りそな銀行はキッズマネーアカデミーというものをやっています、お子様にお金の勉強会など夏休み等に開催しています。</p> <p>この大人の学びの支援というところで、相続支援っていうのが入ってるんですけども、これも金融機関としては、ご相続のご相談とかもさせていただいてるので、これは同じような取り組みをして、協力していけるのかなというところはございます。</p> <p>あと、しくみづくりのところなんですけど、行政手続きのオンライン化というところで、戸籍謄本とか、令和6年の3月から戸籍謄本のオンライン化が行政で始まったというところで、相続手続きも金融機関で、手続き、お取り扱いをさせていただいてるので、これはすごくお客様にとっても便利なシステムになってきていると思うので、本当に進めていただければありがたいと思います。</p> <p>あとマイナンバーのところですね、これも、りそな銀行はじめ金融機関としては、本人確認資料として、顔写真付の確認資料を今ご提示いただいたり、お求めすることが結構多いので、普及を進めていただければ、手続きもスムーズに進みますので、どんどん進めていただければと思います。</p> <p>1つ、ここに載っていないことで、警察の方で取り組みを進められてるので、市としては特にやられてないのかお伺いしたいんですが、ご高齢者の詐欺被害の防止ですね、結構あるのが市から還付金が入ってくるっていう電話が土曜日にあって振り込んでしまったとか、という被害が度々起きてまして、市としてその注意喚起をされてるとかっていうのは、ございますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>市として実は庁内の中でそういった情報共有はされております。</p> <p>度々被害やそういった電話があったということが警察の方から共有されてきますので、基本的には広報誌、特に年齢層の高い方はほとんどの方が、デジタルではなくて紙媒体でご覧になれる方が多いので、回覧板や広報誌の中で、特に消費生活センター等の注意喚起の中に、詐欺被害についての注意喚起はたびたび掲載をさせていただいております。</p> <p>それでもなかなか、だまされる方が悪いのではなく、だます側が非常に巧妙化していくところもありまして、ずっとイタチごっこが続く中で、今後も含めて、きっちりと啓発をしながら、同様の被害が少なくなるように努めていかないといけないと思っております。</p>
<p>三原委員</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>上村副会長</p>	<p>今までのところで市側として、事務局といたしましていろいろな意見を出していただきましたけれども、取り組み方というか、何かヒントになるようなことはありましたでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>皆さんの意見ありがとうございます。</p> <p>皆さん、また先ほど中野委員がおっしゃったように市として基本的なまちづくりをどう考えてるのかという点、他市と比べたときに、何が抜きん出ているのかなかなか見えにくい点というのは非常に実は行政も意識はしているので</p>

すが、なかなか苦慮しているところでもあります。

そういった意味では今現在、魅力をどう捉えて職員が考えて実行しているという体制で今進んでいることをご理解ご承知いただけたらと思います。

一方、人口のことについて少しだけお話をさせていただきます。

私も今現在四條畷市に住んでおりまして、個人の意見になってしまうんですけども、非常に住みやすいまちで、人との距離感も含めて非常に住みやすいまちだと思っております。

ただ、これがすべての人に当てはまるかというと、きっとそんなことはなくて、このまちに合いそうな方々がたくさんいらっしゃるんですね。

でもそれはシティプロモーションという中で、どういう人が市民としてマッチしそうなのか、喜んでもらえそうなのかっていうのをきっちりと人物像としてとらえた中で、今後もそういった方々に広く訴求していけるような取り組みを考えていかないといけないと思っています。

それからもう1点、大きく人口のお話をさせていただきますと、どうしても総人口そのものは、日本の総人口が減ってきている中で、どこの自治体も出産、それから死亡というサイクルの中でいくと、人口そのものは減っているところでもあります。

ここは大きく国で改善していかないといけないという部分ではあるんですが、一方でその転出転入していくという社会増減、先ほど総合戦略の中でも申し上げましたとおり、本市としては、40歳以下の人口をどう増やしていくかというところを、特に重点化して、それを実現するためにこの総合戦略の中でどんなことをしていきましょう、短期的5年間でどんなことをしていきましょうということを決めているわけなんですけど、実は、ほぼ毎年、ここ過去5年6年の中で、3度ほど社会増という結果がありました。

転出入で行くと、転入が多かったということになるんですね。

それ以外の年は当然人口が減っているということで、それには大きな特徴がありまして、実はここ数年ずっと、0歳児から5歳児、それから、30歳から40歳の方っていうのは、ずっと転入超過で進んでおります。

一方で、大きなものとしてはやはり20歳から25歳の方々が一気に転出されていかれる。今進めていかないといけない、大きな対策としましては、子育て世代は認知をいただいて入ってこられる方が一定数いるということは理解できるんですが、学校を卒業して市を離れていく方が非常に多い。

その結果、市の人口、転出入が大きく左右されてきているということで、まちに来てもらうということと、もう一方あわせて非常に重要なのが、今いらっしゃる方が、このまちに住み続けたいと思ってもらえるという環境をどうつくっていくかというのは非常に大切なことであると思っています。

そのためには、1つは、就労していくために、便利なまちであるとか就労環境が整っている、もしくは、ここから先の電車での利便性のこともおっしゃっていただけてましたけども、通いやすい近隣に働く場所があったりとか、ベッドタウンとしてここに住みたいと思っただけのような、そんなまちにならないといけない。

あわせて、利便性だけではなくて、幼少期からの学習の中で、四條畷市にプ

ライドを持っていただく、自分たちの地元が好きであるというそういった気持ちも醸成していけるような教育も必要であると思っています。

これら全体を含めて、その1つの大きな船に乗りながら、大きなビジョンを進めていくことで、住みよいまちになっていくのだろうと思っています。最後、漠然的な話になってしまうんですが、それぞれの分野が、そういった方向性に向かって、取り組みを進めていく中で、最終的に他市から選ばれるまちになっていきたいと思っています。ただ現状、個々の事業についてはまだまだもっと改善していかないといけなかったり、改めて新しい事業を作っていないといけなかったりということに、課題があるということは一定認識しております。

すいません、少しだけ。

様々な角度からのご意見ありがとうございます。

先ほど鈴木からもありましたとおり、四條畷市の人口構成を見ていますと、全体的には減りながらも、少しずつ若返っているという状況です。

高齢化率を見ましても北河内では一番低い状況になっています。

ただ子どもの数もずっと減っている中で就業世代が増えているということで全体的な平均年齢は下がってきているという状況になっています。

私も四條畷在住で、住んでいて心地の良いまちだなあという意見を市民の方からいろいろ多方面からお聞きします。

ただ市外の人に聞くと、どこやねんみたいな感じで知名度は全然ないと。

隠れた穴場みたいな感じになってますけども、住んでみるとすごく心地いい。私、生まれも四條畷なんで、目の前に山がバーンとある風景というのはすごい当たり前のように感じてるんですけども、他市から来られた方に聞くと朝目が覚めて、カーテン開けると前に山があるっていうのは素晴らしいですねと、我々が気づかない点というの、たくさんあって、いろいろなところで意見聞いてみるもんやなあというふうに思います。

四條畷の統計等を調べながら今弱点は何なのか、その弱点を克服していくというところで、市の方も財政状況がよくなりましたので、そういう展開を今考えてるところなんですけども、よく言われる道が狭いという話なんですけど、家を建て替えるにも建て替えられへんと前の道が狭すぎてバックしないと建てれないといったところもたくさんあります。

今年からそのバックするときのセットバックの補助金、補助制度というのを10月から始まります。

空き家になっているところのリフォーム補助や解体費の補助などの制度が今年から始まっていきます。少しずつ、ちょっと遅まきながらなんですけどもまちの景観をこう変えていく取り組みも徐々にスタートしておりますので、今後また皆様にご意見お伺いしながら、新たな施策を考えていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

以上です。

中野委員

ちょっと個別で今の道路のバックの話について、条件をちゃんときちっとつけておいてほしい。というのは、我々現役で地区の仕事をやっている、せっかく道路が広がったのに電柱だけが残ってる。交渉したんですけど、全然だ

	<p>めですよ。そういうことを考えてもらった方がいい。道路を広くしたんだから、道路が100%使えるような施策、すべてが電柱ひとつをとってもそうなんですけど、ひとつ良いことやられるんですけども、それに伴うことをやってないからうまく広がっていかない。利便性があるようでない、私が協力している家が何軒があって、せっかくセットバックしたのにその電柱があるため何のために、という、せっかく補助金も出されるんだから、ひとつひとつもっと現実の生活に見合った問題点の磨き上げをしていただきたい。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。電柱は関電さんが立てておられるんですけども、その辺も道路部局と意見を交わしながらですね、おっしゃる通り、私も車運転しますんで、ご意見は届けさせていただきたいと思います。</p>
上村副会長	<p>いろんな取り組みの中で、金融機関としていろんな案をご提示いただいておりますが、小西さん、いかがでしょうか。</p>
小西委員	<p>枚方信用金庫では巡リズム（めぐりずむ）という空き家対策の取り組みを、もう8年ぐらやっております。</p> <p>当初は空き家っていうキーワードから取り組んだんですけどもなかなかその空き家の解決っていうのは難しいですよ。</p> <p>結構空き家になるような要因があるので、結局その現状空き家になっている。ならばその高齢者の方が相談しやすい、先ほどりそな銀行さんもおっしゃいましたけども、相続の問題であったり、遺言の問題であったり、要は本人が動ける間に自分の意思を表現とか表示できる間にいろいろな取り組みを進めておかないと、結局のところ、先延ばし先延ばしすると、最後は自分で解決もできない、そして、放置してしまうと。</p> <p>そうすると、なかなか解決が難しいところで、高齢者のご夫婦のみでお住まいのところが、最近非常に多いです。</p> <p>また、独居老人の方も多いです。</p> <p>そのような方が持っているニーズや要望、課題を抱えておられているところを窓口や訪問する業務職員が、ご相談させていただきながら早め早めに手を打ってできるようなお手伝いをさせていただいています。</p> <p>このようなところもきっと、先ほど、補助金の問題であったり解体の問題であったりコストもかかることですから、そういうのを行政と一緒に上手く活用させてもらいながらというか、我々もご協力しながら、そういうところを市民の皆さんに伝えていく。</p> <p>例えば自宅が処分できたり解体できたりするとですね、そこにまた若い子育て世代が入ってくれる、器が提供できるわけですので、少しずつでも、継続してやっていくということが一番大事なかなと思います。</p> <p>それともう1点は、先ほど市民の方からも意見が出てましたけどもやはり、ここの四條畷とか交野とかですね、私は交野の委員もさせていただいたので、水が綺麗だとか、山があったり、緑があったり、このようなところが非常に魅力のひとつですよ。</p> <p>だから、我々どっちかっていうと産業系のグループになるので、言い方おかしいかもわかりませんが、どちらかと言えばこのエリアって、住まいに向</p>

	<p>いているエリアだと思うんですね。</p> <p>だからその強みはしっかり表に出して、他からの意見が出てましたけども、よそからよそから入ってきていただくことが一番活性化に繋がるし、地元の商店の皆さんであつたりが潤っていくのは、人がその地域でお金を使うと、交流すると、いうことも大事になりますので、そんなところですね。</p> <p>一緒になって協力しながら進めさせていただければと思います。</p> <p>ぜひまたコロナの後少しどの各市も減ってますけどもイベント的な、以前であれば、例えばオクトーバーフェストみたいなやつを駅前ですれてたと思うんですけど、にぎわいづくりというのがやっぱり必要だと思うんですね。それを機会に、この地域に例えば足を踏み入れられて、こんないいところがあるんやというところを知っていただくことがまた、他市からの流入にも繋がると思うんでそういう機会はね、継続的に定期的に一緒になって進めさせていただければなと思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>上村副会長</p>	<p>ありがとうございます。事務局から今の意見に対しまして何かございますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>この全体像の中で産業振興のお話することはなかなかないんですが、今おっしゃっていただいたように、どうやってにぎわいをつくっていくかはとても大事な要素の1つだと思っています。人が住む要素で家があれば人が住むというよりは、そのライフラインがきちり整った中で初めて生活ができるということになりますので、今おっしゃっていただいたように、人が入ってくるとして、にぎわった商店街といいますかそういう商業が伴っていかないと、同時に発展していかないだろうというのを改めてお話を聞いて思いましたので、参考にさせていただきたいと思います。</p>
<p>上村副会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>いずれにいたしましてもなかなか良い住環境になってきつつあることは事実であるんですけども、なかなかこの産業という部分に関しましては、四條畷市の場合は、非常に少ないというようなこともございまして、厳しいところもございまして。</p> <p>そういった部分である程度の部分を担っている商工会の方からは何かございますか。</p>
<p>中川委員</p>	<p>商工会の方ではこの創業支援に基づく新規起業数というのは、減少しますけど、全体の事業者数の分母はどうか、北河内7市の人口に対して、創業率も出してもらったほうがいいのかなというのを感じます。</p> <p>あと、私は守口市出身で、32歳のときにこっちへ引っ越してきました。</p> <p>結婚してから今60歳になりまして、在住28年なんですけど、娘2人はもう会社勤めてまして東京と大阪、市外へ出てるような状態で、今度ですね、育児はできたんですけども、介護の問題で、また私と嫁がどこか引っ越ししたり、またそれで人口が減少しますね。</p> <p>枚方信用金庫さんの関係で資料があって、守口市の方は少し人口増えてるセ</p>

	<p>ミナーがありました。</p> <p>子育て世代への女性支援が活発になって、増えてるような感じですが、資源としてお金って上限がありますんで、何に特化して注いでいく、人口を増やすなら、私も家族が一時は4人のときはが28年あったんで、そこに注力していくのがいいかなと思いますけれども。</p> <p>以上でございます。</p>
小西委員	<p>その件で、よろしいですか。実は私、守口市の委員も務めてまして。</p> <p>守口市は確かに子育て世代を呼び込むのが上手なんですけども、守口市と、例えば四條畷市と仮に比較した場合ですね、守口市で結構その大手の大きな地主さんがおられて結局自宅を賃貸で入ってこられる方は多いんですけども、例えば四條畷はどちらかという、ここに入ってこられる方って、自宅を賃貸ではなくて自己所有として入ってこられる方が多いんじゃないかと思います。</p> <p>そうすると、やっぱりなかなか入ってきてすぐまた何か、3年、5年で出ていくということは可能性としては低いですよ。</p>
上村副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>言えない部分の意見もいただきましたし、その辺の点はまた参考にさせていただきながら進めて参りたいと思います。</p> <p>他に何か意見ございますでしょうか。</p>
島田委員	<p>まちづくりの創業支援に基づく新規企業数のところなんですけど、先ほどもお話ありましたが20代の方の転出が多いということと、四條畷には就職するような大きな企業が少なくてということと新規で起業する方が増えていけばいいなと思うんですけど、今ちょうどなわて事業者チャレンジ制度という、補助金の支援制度が始まって、すごくいいなと思うんですけど、私もチャレンジさせてもらったんですけど、仕組みが始まったばかりということもあると思いますがチャレンジしづらくて、申請自体諦めてしまう方も多いと聞きます。</p> <p>私を感じたのは、なかなか仕事をしながら助成金や補助金の申請というのがなかなか難しいので、今は1人の先生にしか相談できないっていう状況と、週2日しかその先生がいらっしゃらないということが、なかなかその時間に合わせてっていうのが難しいと思っていたので、そういったところの改善は今後されていくのかということをお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>私どもの方で答えさせていただきます。</p> <p>担当部署ではないため、今すぐできませんよという答えはできないのですが、今いただいたご意見も含めて、今日の会議の場で、このようなご意見が市内で創業されているおられる方からあったということはきちりとお伝えさせていただきたいと思います。</p> <p>それも含めて、どんなアクションをとっていいのかというのは今現状、商工会さんにも委託させていただいてるところでありますので、またそういった調整も含めて検討させていただきたいと思います。</p>

上村副会長	よろしいでしょうか。ほかに何か意見ございますか。相良委員どうぞ。
相良委員	<p>失礼します。</p> <p>田原地域の話になるんですけども、この夏休みに、夏祭りというのをやって、その中で水遊びっていうのをやったんです。</p> <p>対象は小学生・中学生ぐらいの子が水鉄砲で遊ぶのを想定して、企画をしたんですけども、そこに地元の高校生・大学生に関わって欲しいという思いがあって、高校生・大学生ボランティアを募集させてもらって、そこに応募してくれて、来てくれた子たちが何人かいて、当日は赤ちゃんから大学生までが一緒になって頭から全身ずぶ濡れになって遊ぶっていう光景が見られて、よくイベントとかで普通にアルバイトして、ボランティアとか大学生とか募集することはあると思うんですけど、それとは違って地元の高校生・大学生が、参加してくれたことで、小学生・中学生も同じ先生の、中学校時代の先生の話ができたとか、将来こんなことしたいと思ってるんだけど、っていうことを高校生・大学生に相談しやすかったりみたいなことが、遊びの中でも生まれていて、そうやって中学生・高校生・大学生が地元のイベントに関わってくれることで、地元への愛着感が生まれて、大学生とかになったときに一旦外に出てもまた将来戻ってきたいなっていう、あそこへまた戻りたいなっていう気持ちになってくれたら嬉しいなっていうのを今回ちょっとイベントをして感じたので、この市内のいろんなイベントとか取り組みの中に、もっともっとう、大人だけで作るんじゃなくて、子供たちにも関わってもらって、何かこう企画から当日まで運営できるようなことが増えていったら、ちょっとなにか変わってくるのかなと思いました。</p>
上村副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>非常にほっこりするような感じでございます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>他に何かご意見ございますでしょうか。</p> <p>今のいろんな意見を参考にさせていただきながらまた進めて参りたいと思いますのでどうかよろしく願いをいたします。</p> <p>他にないようでございますので、次第2の今後のスケジュール・質疑応答について事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは今後の予定等についてご説明をさせていただきます。</p> <p>まず、本協議会の委嘱期間につきましては、現在の任期が令和7年の3月までとなっております。</p> <p>今後も継続的に進捗管理を行い、また各分野から専門的なご意見を頂戴したく、引き続き協議会を開催して参りたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>また、次回の協議会につきましては、現段階では次年度の実績報告を想定しており、新たな委嘱期間に基づいて委員の皆様にはご出席いただくということを想定しております。</p> <p>ただ、今後の社会経済状況でありますとか、国の動向が大きく変わっていく中で、総合戦略の見直し・検討が必要となる場合は、この限りではなく改めて</p>

	<p>お知らせをした上で、随時協議会を開催させていただきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いたします。</p> <p>私からの説明は以上でございます。</p>
上村副会長	<p>今のスケジュール等に対するご意見等なにかございますでしょうか。</p> <p>ないようでございます。</p> <p>それではその他ということでございますけれども、事務局の方から何かございますか。</p>
事務局	<p>特にございません。</p>
上村副会長	<p>それでは只今をもちまして令和6年度の第1回の四條畷市総合戦略協議会を閉会させていただきます。</p> <p>台風が近づいてきておりました今日開催されるかどうかというのは微妙なところだったんですけれども、台風の方も、未定になってきつつございます。</p> <p>それでも、大変厳しい状況になるかもわかりませんので、どうかお気をつけていただきますようによろしくお願をいたします。</p> <p>これをもちまして閉会とさせていただきます。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>